

TEP-CUP 2026 (東京都高等学校英語プレゼンテーションコンテスト) の実施について

1 目的

都内在学・在住の高校生を対象とした英語プレゼンテーションコンテストを開催し、実践的な英語による発表の機会を通して、英語学習への機運の向上と英語を用いたプレゼンテーション能力の向上を図る。

2 概要

- ◇対象 都内在学・在住の高校生 (国公立・私立)
- ◇進め方 (予選) 生徒が、英語プレゼンテーション動画を作成し、オンラインで応募
(本選) 予選通過者が、会場で英語プレゼンテーション及び質疑応答を実施
- ◇テーマ 「**私たちがつくる未来の東京**」
- ◇特徴 プレゼンテーション能力を「アイデア、論理性、表現上の工夫」等から評価
- ◇審査委員 吉田 研作 氏上智大学名誉教授 (審査委員長) 他 5 名
- ◇表彰 都知事賞はじめ複数の賞を設定し、生徒の参加意欲を向上
- ◇本選・表彰式 (日時) 令和 8 年 3 月 21 日 (土)
(会場) 大手町三井ホール Otemachi One 3 階



本選会場

3 実施状況

- **応募56校95ユニット**※ (都立28校51ユニット、私立25校36ユニット、国立2校3ユニット、公立1校5ユニット)
- **本選8校8ユニット** (都立2ユニット、私立5ユニット、公立1ユニット)

※1ユニットは、1~5人で構成

4 成果と課題

- 生徒の満足度は非常に高く、学習意欲の向上、多様な学びの機会を提供
- 教員等の授業改善の契機
- 内容、ステージの使い方、スライド等の資料の工夫をすることで、プレゼンテーション力は更に向上

5 今後の方向性

参加校の拡大や成果を広く発信することで授業改善を促し、生徒の英語によるプレゼンテーション力の一層の向上を推進

(参考) **TEP-CUP2026** 本選結果 (8ユニット) ・奨励賞受賞ユニット (6ユニット)

	賞	ユニット名/学校名	人数	学年	プレゼンテーションのタイトル(英語)/概要
1位	東京都知事賞	Mirai 広尾学園高等学校	4人	1年	Unlocking Tokyo's Mirai: Bridging Youth to the Real World ・将来に向き合ったインターンシップを経験することで、学生が将来の道を自信をもって主体的に選択できる社会を実現
2位	東京都教育長賞	Planet Harmony 東京都立竹早高等学校	1人	2年	For a Stable First Level ・最先端技術を使った垂直農法という新たな農業ソリューションにより、世界をリードする技術を組み込んだ持続可能な都市を実現
2位	私学協会会長賞	Mepak 北豊島高等学校	1人	2年	"A Day in the Life" -A First Small Step Toward an Inclusive Tokyo- ・各自に合った学びの提供を通じ、全ての子どもたちが心の安心を感じ孤立しない社会、他者や社会と繋がる未来を実現
4位	審査委員会賞	Tokyo Unshaken 吉祥女子高等学校	1人	1年	One City. No One Left Behind. ・多言語・オフライン対応の避難支援アプリ「Tokyo Disaster Project」により、全ての人が災害時に言語や文化の壁なく安全に避難できる都市を実現
5～8位	グローバル人材育成部賞	Robo ACE 千代田区立九段中等教育学校	3人	2年	Shaping the Future of Education ・ロボットを活用し、児童・生徒が授業への参加方法を自由に選べるインクルーシブな教育が確立した東京を実現
		Tokyo English Pathfinder 東京都立国立高等学校	1人	2年	Tokyo lives in English ・「英語とともに暮らす都市」、つまり英語を教科としてだけではなく、コミュニケーションを取るための「ツール」として扱うことができる都市を実現
		NEO GEN Jissen Joshi Gakuen 実践女子学園高等学校	5人	2年	Neon Lights, Human Hearts ・私たち自身にとって、東京が幸せに安定して生活できる場所となるよう、「完璧で発展した東京」ではなく「温かくつながりのある東京」を実現
		Innovative Catalyst Unit 国際基督教大学高等学校	2人	2年	Tokyo Island Project ・東京の62の地域がそれぞれ自立しながらもデジタルで結ばれた「Tokyo Island Platform」を構築し、多様性や市民参加を推進
	本選参加特別賞※	Robo ACE 千代田区立九段中等教育学校	※本選出場・奨励賞受賞ユニットの相互投票による		
	奨励賞	JK RABBIT(東京都立昭和高等学校 2年5人)、EDU FORCE(千代田区立九段中等教育学校 1年3人)、Team mental health matters(国本女子高等学校 2年2人)、Mita IC(三田国際科学高等学校 1年4人)、Mike and Sully(普連土高等学校 2年2人)、A Point Earner(早稲田大学高等学院 3年1人)			

(参考) TEP-CUP2026 本選・表彰式等の様子

<本選 午前>

- 開会式
- 本選

- ・ 本選出場 8 ユニットによるプレゼンテーション
- ・ 審査委員[※]との質疑応答

【審査委員】 吉田 研作 氏
ミーガン・エイトケンヘッド 氏
グレゴリー・ウィフ 氏
ヤーッコ・ノウシアイン 氏
山脇 啓造 氏
林 礼子 氏

上智大学名誉教授 ※審査委員長
駐日アメリカ合衆国大使館広報・文化交流部 英語教育コーディネーター
駐日英国大使館文化部ブリティッシュ・カウンシル アカデミック・マネージャー
フィンランドセンター 所長
明治大学国際日本学部 教授
BofA証券株式会社 取締役副社長



プレゼンテーションの様子



プレゼンテーションの様子



プレゼンテーションの様子

<生徒とJETの交流 午後①>

- プレゼンテーションについてフィードバック

- ・ 参観したJETから各ユニットに対するプレゼンテーションへのアドバイス
- ・ 質疑応答



生徒とJETの交流会



生徒とJETの交流会

<表彰式 午後②>

- 講評
- 結果発表
- 各賞授与
- 記念撮影



講評・結果発表



東京都知事賞



記念撮影

(参考) TEP-CUP2026 参加者等のコメント

審査委員長のコメント

- 質が高く、英語力はもとより、プレゼンテーション力が全体として確実に向上
- 今後、以下の点を工夫すると、さらに向上
 - ・ (内容) 今後、経験に基づいた内容や提案の具体性を示し、常に聞き手の視点で考える。
 - ・ (ステージの使い方) 自然に動きながら体の動きも使って表現することで、より印象的で説得力を増す。
 - ・ (スライド等のまとめ方) 強調したい部分の明確化、ビジュアルの数を精査し、簡潔にまとめる。

生徒の声

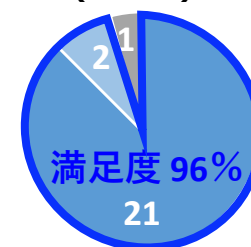
(TEP-CUP全般)

- ・ 「私たちがつくる未来の東京」というテーマに向き合うことで、とても良い学びを得ることができた。
- ・ 他の生徒の発表は、自分と異なる着眼点でテーマを捉えており、多様な考えに触れることができた。
- ・ TEP-CUPの準備・本番での経験は必ず将来につながる。これからも様々なことに挑戦していきたい。

(JETとの交流会)

- ・ 多様な考え・背景をもつJETからアドバイスをもらい、自分の課題や新たな視点に気付くことができた。

生徒の満足度
(N=24)



JETとの交流の満足度
(N=24)



■ 非常に満足 ■ 満足 ■ やや不満足

教員の声

- ・ 英語の技能だけでなく、自身の考えを整理・表現することの重要性を実感した。今後のプレゼンテーションの指導では、発表の中身や伝え方の指導に重点を置き、表現のツールとしての英語力の育成を目指していく。

JETの声

- ・ TEP-CUPの簡略版として、共通のテーマに基づいて、生徒自身が課題と解決策を考え、発表する機会を授業で設けてみたい。
- ・ 本選出場生徒のステージの使い方、声の出し方、間の取り方、ジェスチャーに感銘を受けたので、授業ではプレゼンテーションスキル全般を指導していきたい。